Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 22第19号
2022年（令和四年） 8月12日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

## ■ 概況

7/28～8/3のNYMEX・WTI先物市場は、90.66～98.62ドルの範囲で推移した。

8月4日は、英イングランド銀行が、0.5%の利上げを決定、世界的な景気後退懸念が拡大大幅続落し90ドルを割った。9月限の終値は前日比2.12ドル安の88.54ドル。

週末5日は、朝方、前日に続き、売りが優勢だったが、午後から反動の安値拾いやポジション調整の買いが入り、反発した。9月限の終値は前日比0.47ドル高の89.01ドル。

週明け8月8日は、米国の7月の堅調な雇用統計と中国の7月の好調な貿易統計の発表を好感し、続伸、90ドル台を回復した。9月限の終値は前日比1.75ドル高の90.76ドル。

9日は、午前中、ロシアからのハンガリー、チェコ向け原油が4日から停止しているとの報道で買いが先行したが、午後、イランと米国の核合意再建交渉が最終合意に近づきつつあると伝わり、需給の逼迫感が薄らぎ、世界的な景気後退懸念と相まって、3営業日ぶりに反落した。9月限の終値は前日比0.26ドル安の90.50ドル。

10日は、先週末時点の米国石油在庫統計で、原油は増加したものの、ガソリンが急減したことで需要増加期待が膨らむとともに、ロシア産原油の東欧向け供給が再開されるとの報があり、反発した。為替市場のドル安進行も、原油先物の割安感から値上がり要因となった。9月限の終値は前日比1.43ドル高の91.93ドル。

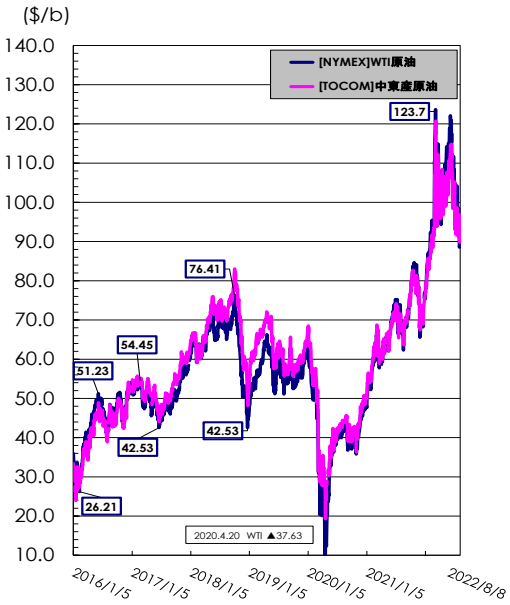
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（9月渡し）は、7月28日～8月3日の間、98.60～106.50ドルの範囲で推移した。8月4日95.60ドル、5日94.10ドル、8日94.50ドル、9日94.80ドル、10日96.00ドルで推移した。

為替は、7月28日～8月3日の間、130.88～136.30円の範囲で推移した。8月4日133.66円、5日133.02円、8日135.34円、9日134.89円、10日135.25円で推移した。

財務省が8月5日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、7月中旬の原油輸入平均CIF価格は、99,770円で、前旬比159円高、ドル建て116.87ドルで前旬比0.20ドル安、為替レートは1ドル/135.73円。

そのような中で、8月8日時点の価格は、ガソリンが前週比0.2円の値上がり、軽油も同0.3円の値上がり、灯油は2円の値上がり（18リットルベース）であった。ガソリンは6週ぶりの値上がり、軽油も6週ぶりの値上がり、灯油も6週ぶりの値上がりであった。ガソリンの全国平均価格は170.1円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、次週の補助金の支給額は31.4円となった。

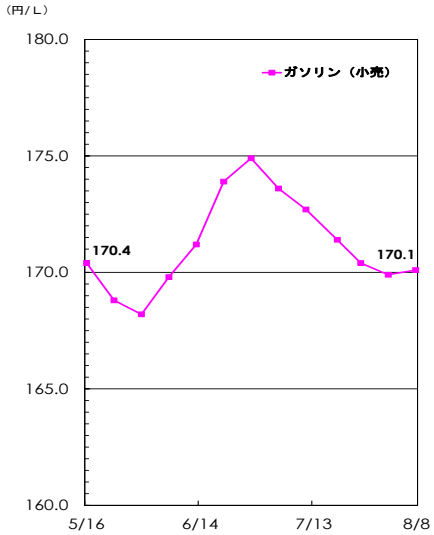
| 原油 | | | 今週 | | 前週比 | 前年比 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 需給 | 原油処理量 | （千kl） | 7/31 ～ 8/6 | 3,210 | ▲ 189 | ▲ － |
| 需給 | トッパー稼働率 | （%） | 〃 | 83.4 | ▲ 4.9 | ▲ － |
| 需給 | 原油在庫量 | （千kl） | 8/6 | 9,835 | ▼ -103 | ▼ － |
| 価格 | 中東産原油(TOCOM) | （$/bbl） | 8/8 | 91.11 | ▼ -5.89 | ▲ 24.0 |
| 価格 | WTI原油（NYMEX） | （$/bbl） | 8/8 | 90.76 | ▼ -3.13 | ▲ 24.3 |
| 価格 | 原油ＣＩＦ単価 | （$/bbl） | 7月中旬 | 116.87 | ▼ -0.20 | ▲ 45.11 |
| 価格 | ①原油CIF単価 | （¥/kl） | 〃 | 99,770 | ▲ 159 | ▲ 49,868 |
| 価格 | ②ドル換算レート | （¥/$） | 〃 | 135.73 | ▼ -0.47 | ▼ -25.17 |
| 価格 | 外国為替ＴＴＳレート | （¥/$） | 8/8 | 136.34 | ▼ -2.43 | ▼ -24.98 |



（単位：千kl、円/㍑）

| ガソリン | | | 今週 | | 前週比 | 前年比 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 需給 | 生産 | | 7/31 ～ 8/6 | 1,013 | ▲ 128 | ▲ – |
| | 輸入 | | 〃 | n.a. | n.a. | n.a. |
| | 出荷 | | 〃 | 1,011 | ▲ 107 | ▲ – |
| | 輸出 | | 〃 | 39 | ▲ 38 | ▼ – |
| | 在庫 | | 8/6 | 1,348 | ▼ -37 | ▼ – |
| 価格 | 業転 [陸上ローリー 4地区平均] | (RIM) | 8/2 ～ 8/8 | 79.2 | ▼ -0.1 | ▲ 11.9 |
| | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) | 8/2 ～ 8/8 | 79.0 | ▼ -1.0 | ▲ 12.4 |
| | | (TOCOM/中部) | 8/8 | 77.0 | ➡ 0.0 | ▲ 11.5 |
| | 小売 [週動向] | (資エ庁公表) | 8/8 | 170.1 | ▲ 0.2 | ▲ 11.6 |

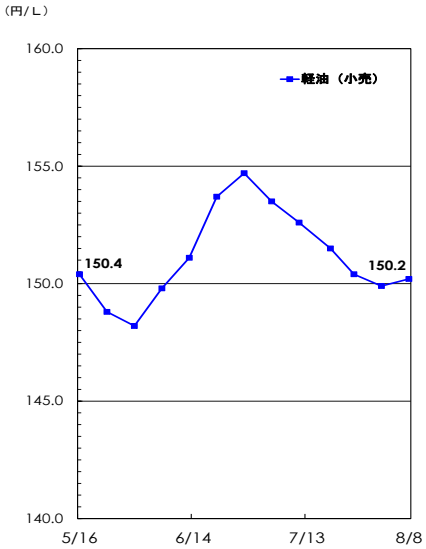
※業転、先物価格は税抜き価格




（単位：千kl、円/㍑）

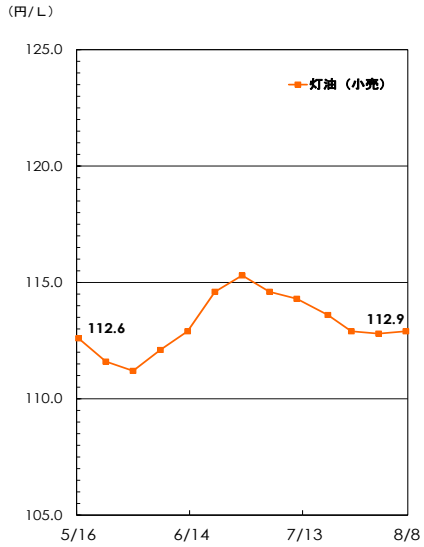
| 軽油 | | | 今週 | | 前週比 | 前年比 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 需給 | 生産 | | 7/31 ～ 8/6 | 750 | ▼ -62 | ▼ – |
| | 輸入 | | 〃 | n.a. | n.a. | n.a. |
| | 出荷 | | 〃 | 721 | ▲ 61 | ▲ – |
| | 輸出 | | 〃 | 184 | ▲ 4 | ▲ – |
| | 在庫 | | 8/6 | 1,232 | ▼ -155 | ▼ – |
| 価格 | 業転 [陸上ローリー 4地区平均] | (RIM) | 8/2 ～ 8/8 | 77.1 | ▲ 0.9 | ▲ 8.5 |
| | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) | 8/2 ～ 8/8 | 80.6 | ▼ -0.1 | ▲ 13.3 |
| | | (TOCOM/中部) | 8/8 | – | – | – |
| | 小売 [週動向] | (資エ庁公表) | 8/8 | 150.2 | ▲ 0.3 | ▲ 11.8 |

※業転、先物価格は税抜き価格




（単位：千kl、円/㍑）

| 灯油 | | | 今週 | | 前週比 | 前年比 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 需給 | 生産 | | 7/31 ～ 8/6 | 122 | ▲ 42 | ▲ – |
| | 輸入 | | 〃 | n.a. | n.a. | n.a. |
| | 出荷 | | 〃 | 15 | ▼ -20 | ▼ – |
| | 輸出 | | 〃 | 25 | ▲ 25 | ▲ – |
| | 在庫 | | 8/6 | 1,653 | ▲ 82 | ▼ – |
| 価格 | 業転 [陸上ローリー 4地区平均] | (RIM) | 8/2 ～ 8/8 | 76.8 | ▲ 0.6 | ▲ 8.9 |
| | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) | 8/2 ～ 8/8 | 81.2 | ▼ -0.8 | ▲ 19.7 |
| | | (TOCOM/中部) | 8/8 | 74.5 | ➡ 0.0 | ▲ 11.2 |
| | 小売 [週動向] | (資エ庁公表) | 8/8 | 112.9 | ▲ 0.1 | ▲ 15.2 |



# ■ 関連情報

## 1　海外/原油

今週の石油先物市場は、引き続き、値下がり基調の中、不安定な動きで、週末には90ドル台を割り込んだWTI先物の終値は4日の88.54ドルから10日の91.93ドルと推移した。

8月10日発表の5日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫情報は、原油在庫が前週比550万バレル増と市場予想(前週比10万バレル減)に反する積み増しだったが、夏のドライブシーズンで需要が盛り返し、ガソリン在庫は500万バレル減と予想(同60万バレル減)を大きく上回る取り崩しで、米国需要の先行きを期待させる内容だった。

EIAによると、ガソリンの小売価格は、8月8日時点で前週比1.54セント値下がりの1ガロン4.038ドル(145.3円/ﾘｯﾄﾙ)と8週連続の値下がりであった。ディーゼル小売価格は、前週比1.45セント値下がりの1ガロン4.993ドル(179.6円/ﾘｯﾄﾙ)と7週連続の値下がりであった。

ベーカーヒューズ社によると、8月5日時点の米国内稼働石油掘削装置は前週比7基減の598基と2週ぶりの減少となった。

## 2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、2022年7月31日～8月6日に休止したトッパー能力は10.3万バレル/日で、前週に対して26.4万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は321.0万klと、前週に比べ18.9万kl増加。前年に対しては35.7万klの増加。トッパー稼働率は83.4%と前週に対して4.9ポイントの増加、前年に対しては9.3ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェット、軽油が減産、その他の油種で増産となった。ガソリン/14.5%増、ジェット/37.5%減、灯油/52.8%増、軽油/7.7%減、A重油/6.3%増、C重油/33.4%増。今週のC重油の輸入は7.6万kl(前週比7.6万kl増)。軽油の輸出は18.4万kl(前週比0.4万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比で灯油、C重油が減少、その他の油種で増加した。前年比ではガソリン、ジェット、軽油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は101.1万kl(対前週11.8%増)と3週連続で増加した。ジェット13.5万kl(対前週89.3%増)、灯油1.5万kl(対前週58.2%減)、軽油72.1万kl(対前週9.2%増)、A重油18.6万kl(対前週6.7%増)、C重油14.9万kl(対前週27.2%減)。

(単位：千KL)

| | 今週 (7/31 ~ 8/6) | 前週 (7/24 ~ 7/30) | 前週比 | |
|---|---|---|---|---|
| ガソリン | 1,011 | 904 | ▲ 107 | (12%) |
| ジェット燃料 | 135 | 71 | ▲ 64 | (90%) |
| 灯油 | 15 | 35 | ▼ -20 | (-57%) |
| 軽油 | 721 | 660 | ▲ 61 | (9%) |
| A重油 | 186 | 174 | ▲ 12 | (7%) |
| C重油 | 149 | 204 | ▼ -55 | (-27%) |
| 合　計 | 2,217 | 2,048 | ▲ 169 | (8%) |

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

## 2　国内/製品需給　（2）在庫

8月6日時点の在庫は灯油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェットが増加し、その他の油種で減少となった。

ガソリンは134.8万kl、前週差3.7万kl減。前年に対しては14.9万kl少ない。

灯油は165.3万kl、前週差8.2万kl増。前年に対しては34.6万kl少ない。

軽油は123.2万kl、前週差15.5万kl減。前年に対しては33.5万kl少ない。

A重油は62.7万kl、前週差1.3万kl減。前年に対しては8.4万kl少ない。

C重油は166.2万kl、前週差9.3万kl増。前年に対しては20.8万kl少ない。

(単位：千KL)

| | 今週 (8/6) | 前週 (7/30) | 前週比 | |
|---|---|---|---|---|
| ガソリン | 1,348 | 1,385 | ▼ -37 | (-3%) |
| ジェット燃料 | 761 | 881 | ▼ -120 | (-14%) |
| 灯油 | 1,653 | 1,571 | ▲ 82 | (5%) |
| 軽油 | 1,232 | 1,387 | ▼ -155 | (-11%) |
| A重油 | 627 | 640 | ▼ -13 | (-2%) |
| C重油 | 1,662 | 1,569 | ▲ 93 | (6%) |
| 合　計 | 7,283 | 7,433 | ▼ -150 | (-2.0%) |

## 3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

8月2日～8月8日の指標原油価格は前週比で値下がりし、為替レートも円高の進行により、元売会社の原油コストは、8.0円値下がりしたものと見られる。

上記コストダウンに先週の補助金額37.7円を加えたコスト上昇額29.7円に、補助金31.4円が支給されることから、次週（8/11～8/17）の元売会社の実質的な卸価格は1.7円の値下げとなった模様。

## 3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

8月2日～8日の製品スポット市況は、7月26日～8月1日平均と比べ、海上・ガソリン、陸上・灯油、海上・灯油、陸上・軽油の値上がりを除く、 他の取引・油種で値下がりした。

直近週（8/2～8/8）の陸上スポット価格平均値は、前週（7/26～8/1）比で、ガソリンは0.1円の値下がり、灯油は0.6円の値上がり、軽油は0.9円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週（8/2～8/8）に、前週（7/26～8/1）比で、ガソリンは1.2円の値上がり、灯油は0.7円の値上がり、軽油は0.1円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは1.0円の値下がり、灯油は0.8円の値下がり、軽油は0.1円の値下がりだった。

（RIM）　（単位：円/㍑）

| [陸上ローリー 4地区平均] | | 今週　(8/2 ~ 8/8) | 前週　(7/26 ~ 8/1) | 前週比 |
|---|---|---|---|---|
| スポット価格 | レギュラー | 79.2 | 79.3 | ▼ -0.1 |
| | 灯油 | 76.8 | 76.2 | ▲ 0.6 |
| | 軽油 | 77.1 | 76.2 | ▲ 0.9 |

（TOCOM）　（単位：円/㍑）

| [期近物/終値] 〔平均〕 | | 今週　(8/2 ~ 8/8) | 前週　(7/26 ~ 8/1) | 前週比 |
|---|---|---|---|---|
| 先物価格 | レギュラー | 79.0 | 80.0 | ▼ -1.0 |
| | 灯油 | 81.2 | 82.0 | ▼ -0.8 |
| | 軽油 | 80.6 | 80.7 | ▼ -0.1 |

※上記価格は税抜き価格

参考値　（8/2～8/8実績値）　（単位：円/㍑）

| 油種 | 現物 | 先物 | 平均 |
|---|---|---|---|
| ガソリン | ▼ -0.1 | ▼ -1.0 | ▼ -0.6 |
| 灯油 | ▲ 0.6 | ▼ -0.8 | ▼ -0.1 |
| 軽油 | ▲ 0.9 | ▼ -0.1 | ▲ 0.4 |
| A重油 | ▲ 1.0 | | |

（出所）現物：　RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：　TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

## 4　国内/製品小売価格

8月8日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円高の170.1円、軽油も同0.3円高の150.2円、灯油は18㍑ベースで同2円高の2,032円（1㍑ベースでは同0.1円高の112.9円）。ガソリンは6週ぶりの値上がり、軽油も6週ぶりの値上がり、灯油も6週ぶりの値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは23道県、横ばいは2県、値下がりは22都府県だった。全国最安値は宮城県の162.7円、その次は埼玉県の163.3円であった。他方、最高値は長崎県の183.1円だった。最も値上がりしたのは島根県（前週比2.3円高）、横ばいは高知県、三重県、最も値下がりしたのは佐賀県（同1.4円安）だった。

次回調査時（8/15）のガソリンの小売価格は、横ばいが予想される。

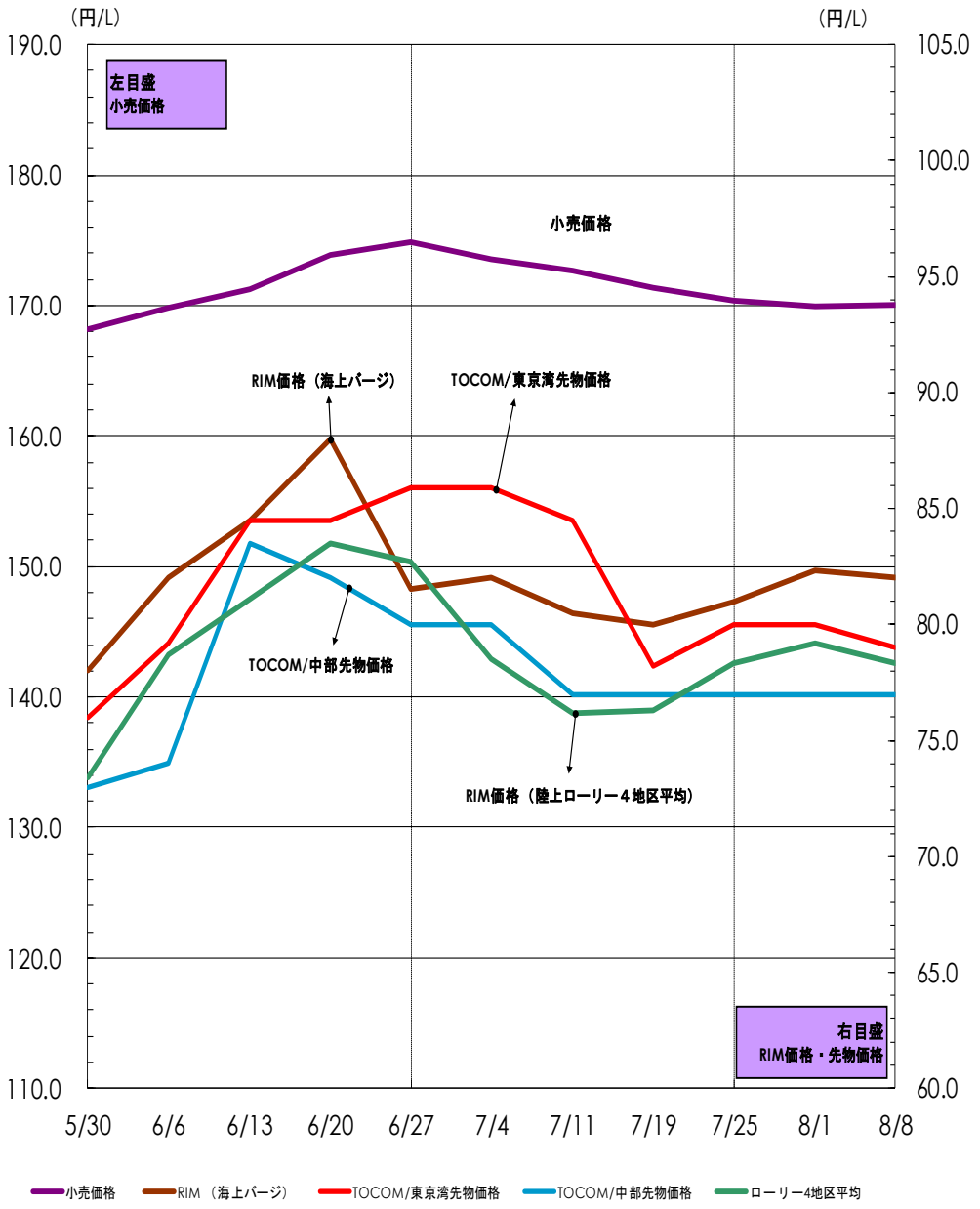
（単位：円/㍑）

| （資エ庁公表） [週動向] | | 今週　(8/8) | 前週　(8/1) | 前週比 | 直近高値 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 小売価格 | レギュラー | 170.1 | 169.9 | ▲ 0.2 | 08/8/4 | 185.1 |
| | 灯油 | 112.9 | 112.8 | ▲ 0.1 | 08/8/11 | 132.1 |
| | 軽油 | 150.2 | 149.9 | ▲ 0.3 | 08/8/4 | 167.4 |

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2022/5/30　～　2022/8/8)




(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2022第20号）の公表は、8/26（金）14:00 です。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

**①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉**
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

**②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉**
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

**③【国内製品・元売仕切価格】**
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

**④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉**
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

**⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉**
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

**⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉**
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。